

佐野市における小中一貫教育

あそ野学園義務教育学校の取組



令和2年4月に開校したあそ野学園義務教育学校では、施設一体型の特徴を生かした小中一貫教育に取り組んでいます。コミュニケーション能力の育成を柱とした様々な実践に取り組んでいる様子をお伝えいたします。



異学年児童生徒の交流

2年生きりりあそ野科「野菜を育てよう」と8年生技術科「生物育成」との関連が図れるよう学習指導計画を見直し、交流活動を取り入れた活動を行いました。8年生は学習のまとめとして下級生向けのプレゼンテーション作成を行うことで、学習内容のより深い理解を図っています。



コミュニケーション能力を育む英語教育

5年生の外国語科では、8年生に英語でインタビューをする活動を実施しています。児童生徒の発達の段階を考慮した重点指導項目を設定し、それをもとに英語を用いたコミュニケーションを楽しむことができる活動を実施することで、発表力・発信力を育てる活動の充実を図っています。



キャリア教育の推進

キャリア教育では、目標の一つに「人間関係形成・社会形成能力」を設定し、積極的に社会を形成しようとする意欲を育んでいます。地域の職業人から講話を伺ったり、特別活動等への関わりを記録する「きらり★パスポート」を活用したりして、児童生徒のキャリア形成や自己実現を図っています。

令和2年度は、新型コロナウイルスへの対応のため、予定されていた活動は十分に実施できませんでしたが、その中でも施設一体型の特色を生かした小中一貫教育の取組が様々な場面で実践されました。

令和2年度の取組から（あそ野学園義務教育学校 小中一貫教育実施報告書より抜粋）

- ・1年生から9年生まで同じ学校で学ぶことにより、上級生の責任感や他の人の役に立っているという意識が高まり、上級生の下級生に対する思いやりの心が生まれている。
- ・下級生の上級生に対する感謝の気持ちや憧れの気持ちが育まれている。
- ・9年間の学びの連続性に対する教職員の意識を高めることができた。

コロナ禍における推進ブロックの取組

これまで取り組んできた活動に、感染症対策や学びの連続性等の視点から新たな工夫を加え、今後の持続可能な取組へとつながる実践が見られました。

(以下の取組事例は、「令和2年度 小中一貫教育実施報告書」より抜粋して掲載)



オンラインによる児童生徒の交流

毎年開催している「いじめゼロサミット」を、令和2年度はオンラインを活用して実施しました。参加した児童生徒は、例年と同様に活発な意見交換を行うことができました。コロナ禍においても、ICTの活用により児童生徒の交流を図ることができました。



小学校を会場とした進学説明会・出前授業

例年中学校で行っている進学説明会を、感染症対策のため各小学校で実施しました。中学校教員による出前授業は、中学校の学習への児童の期待感を高めることを主なねらいとしていますが、教員の小中の連続性を意識した指導の充実にもつながっています。



地域の人材を生かしたキャリア教育の推進



小学校5・6年生と中学生を対象に、同じ講師がそれぞれ講話を行いました。講師の生き方や考え方、仕事の内容など、それぞれの発達の段階を考慮した講話であったため、児童生徒が主体的に考え、その後のより深い学びへとつながりました。

令和5年4月 佐野市立葛生義務教育学校が開校します。

(葛生中・葛生小・葛生南小・常盤中・常盤小・氷室小が統合)



本市で2校目の義務教育学校となる「葛生義務教育学校」開校に向けて、様々な準備が着々と進んでいます。制服や校章はすでに決定し、教育課程の編成等も進められています。

校舎改築に伴い、葛生中学校は葛生小学校に移転し、現在、児童生徒は同じ校舎で過ごしています。同じ学校施設内での生活において、児童生徒のあたたかな交流が自然と生まれています。

また、葛生地区の4小学校では、遠足や社会科見学等を共同で実施しています。さらに、葛生中学校と常盤中学校との連携も検討されており、義務教育学校開校に向けた小学校間・中学校間の連携が進められています。

佐野市のホームページに「葛生義務教育学校 開校だより」を掲載しており、進捗状況等を確認できます。



【編集発行】佐野市教育委員会 学校教育課

〒327-8501 佐野市高砂町1番地 TEL 0283(20)3107